

日本語

II

日 本 語

II

東京外国語大学附属
日 本 語 学 校

東京外国語大学附属日本語学校教材開発研究協議会

会 長 半田 一郎

伊藤 芳照 大木 隆二 川合 淳介

川瀬 生郎 河原崎 幹夫 北沢 綾子

小林 幸江 杉原 正勝 鈴木 忍

高橋 睦 豊田 豊子 姫野 昌子

松井 信行 松岡 弘 村崎 恭子

守屋 宏則 吉岡 英幸 吉原 久夫

事務担当 大伏 慶二

日本語 II

定価 900円

昭和54年6月15日初版発行

著作編集者 東京外国語大学附属日本語学校
教材開発研究協議会

代表者 鈴木 忍

〒183 東京都府中市任吉町5-10-1

電話 0423-65-0311

印刷発行 株式会社 凡人社

代表者 田中久光

〒102 東京都千代田区麹町6丁目2

(麹町6丁目ビル6階)

電話 03-265-7782~3

©JAPANESE LANGUAGE SCHOOL

Tokyo University of Foreign Studies Fuchu Campus, 1979

ま え が き

1. この「日本語Ⅱ」は、東京外国語大学附属日本語学校において、日本語を初歩から学ぼうとする留学生を対象として編集したものの一つである。
2. 本書は、本校編の「にほんごのはつおん」「にほんごーひらがなとかたかな」「日本語Ⅰ」のあとを受けて、日本語の基礎的な構造に習熟させることに目標をおいている。
3. 本書は、本校の年間カリキュラムの第二学期中に、授業時間約350時間をかけ、終了することを予定して編集している。本書のあと、第三学期においては「日本語Ⅲ」へと学習を進め、それによって、日本の大学に進学した後、日本語による学習活動ができる能力を獲得させようとするものである。
4. 本書は、22課から成っている。とりあげた題材は、日常生活的なもの、文学的なもの、文化的なもの、社会的なもの、科学的なものなど、広い範囲にわたっており、言語生活が円滑に営まれる能力を養うのに必要な言語場面を多く提出した。
5. 各課はそれぞれ「本文」と「練習」とから成っている。「本文」では、文型や文法事項をいろいろな形式で提出し、これを文脈の中で正しく理解できるように配慮をした。「練習」では、「本文」に提出された文型や文法事項を個々に取り上げ、模倣・記憶・応用の順序で、「言葉の使いかた」「まるうめ」「わくうめ」「置きかえ」「言いかえ」「問いと答え」などの名称で、各種の練習を課した。
6. 本書では、「本文」と「練習」の中の「言葉の使いかた」において、新

たに語い約3,700語を提出した。

各課において新たに提出された語いは、それぞれ各課の終わりに「新しい言葉」としてまとめ、本書全体に提出された新出語いは巻末に「語いさくいん」としてまとめた。

7. 漢字は新出920字を、読みかえ480字を当用漢字表から選んで提出した。

各課において提出された新出漢字と読みかえ漢字は、それぞれ各課の終わりに「新しい漢字」としてまとめ、本書全体に提出された新出漢字は巻末に「新出漢字表」としてまとめた。

欄外に書き出した漢字は、新出と読みかえ漢字で、新出漢字はそのまま、読みかえ漢字は下線をつけて示した。

各課の終わりの「新しい漢字」においても、新出漢字はそのまま、読みかえ漢字には下線を付け、さらに既習漢字には をつけ、それぞれを区別した。

8. かなづかいは、現代かなづかいによって統一した。

漢字については、当用漢字表、当用漢字改訂音訓表を基準にしているが、音訓表のうち「付表」にあるものはふりがなをつけて提出した。

昭和54年 5月20日

東京外国語大学附属日本語学校
教材開発研究協議会

目 次

		ページ
1	朝の 散歩	1
2	^{くだもの} 果物	7
3	夏休みの 便り	19
4	火の 発明	28
5	五色の しか	39
6	銀貨や 銅貨は なぜ 丸いか	53
7	天気と 我々の 生活	63
8	ぼくの ゆめ わたしの ゆめ	76
9	東京	88
10	野ばら	100
11	漢字の知識	118
12	病気の予防	140
13	ツルの恩返し	155
14	抗議する義務	173
15	敬語とその使い方	185
16	手紙のいろいろ	205
17	山の湖 —紀行文—	226
18	キュリー夫人	242
19	くもの糸	270
20	季節風と日本人	288

21	ことわざ	302
22	生物のいる星といない星	315
	漢字さくいん	337
	語いさくいん	370
	新出漢字表	394

Ⅰ 朝の 散歩

目が さめると すぐ 飛び起きて、 庭に 出ました。

空は 青く 晴れて いて、 雲 一つ ありません。 朝日が 庭 いっぱいに さして います。 ゆうべの 雨に ぬれた 木の 葉が、 きらきら 光って います。 ほんとうに 気持ちの いい 朝です。

わたしは むね いっぱい 朝の きれいな 空気を すいながら、 やわらかい 土を ふんで 庭を 歩きました。

向こうに 見える 森も 林も 家も 朝日を受けて、 かがやいて います。 どこからか ラジオたいそうの 音楽が 聞こえて きます。

小鳥も うれしそうに 鳴きながら、 えだから えだに 飛び移って います。 池には 水が いっぱいになって いて、 金魚も 気持ち よさそうに 泳いで います。

わたしは しばらく 庭を 散歩してから、 へやに もどって、 朝ご飯まで 新聞を 読みました。

散 飛 庭 空 土 向 移 魚 飯

1. 言葉の 使いかた

(1) さす

- ① 月の 光が 青く さして いて、 とても きれいです。
- ② そこは 日が さして 暑いですから、 どうぞ こちらに、 おいで ください。
- ③ さっきまで 日が さして いたが、 雲が 出て かげって しまいました。
- ④ 日が さしこみますから、 カーテンを 閉めて くださいませんか。
- ⑤ 日の さしこまない へやは、 健康に よく ありません。

(2) ぬれる

- ① 着物が 水に ぬれました。
- ② 雨に ぬれると、 かぜを 引きますよ。
- ③ 手が ぬれて いるので、 てぬぐいで ふきました。
- ④ かさを 持って いなかったので、 すっかり ぬれて しまいました。
- ⑤ 雨に ふられて、 すっかり ぬれて しまいました。

(3) いっぱい

- ① 駅の 前は、 人で いっぱいだ。
- ② 人が いっぱい 駅の 前に 集まって いる。

- ③ どの バスも いっぱいで、 乗れない。
- ④ 川の 水が いっぱいになって あふれた。
- ⑤ はら いっぱい ご飯を 食べた。
- ⑥ 庭 いっぱいに 花を うえた。

(4) すう

- ① ストローで ソーダ水を すいました。
- ② この スープは 熱くて すえません。
- ③ かは 人間の 血を すいます。
- ④ 息を 鼻から すって、 口から はきます。
- ⑤ 空気を すったり、 はいたり します。
- ⑥ むねを 広けて、 空気を むね いっぱい すいこみなさい。
- ⑦ たばこの けむりは すいこまない ほうが いいですよ。
- ⑧ ここで たばこを すっては いけません。

(5) もどる

- ① この 体温計は ふると、 もとに もどります。
- ② 来すぎましたから、 いま 来た 道を もどって ください。
- ③ みなさん、 席に もどって ください。
- ④ 落とした お金は ほとんど もどって きます。
- ⑤ すすむだけでなく、 まえに もどって ふくしゅうも しなさい。

2. まるうめ

- ① 目 さめる。 ② 庭 出る。
- ③ この 道を行くと、 駅の 前 出る。
- ④ 家 出る。 ⑤ 三年まえに 国 出ました。
- ⑥ 日 出る。 ⑦ ころんで、 手から 血 出ました。
- ⑧ 木の 葉 雨 ぬれる。
- ⑨ 木の 葉 光って いる。
- ⑩ 土 ふむ。
- ⑪ 人の 足 ふむ。
- ⑫ 庭 散歩する。
- ⑬ 庭 歩く。
- ⑭ 音楽 聞く。
- ⑮ 音楽 聞こえる。

3. わくうめ

- (1) れい (かがやく) 朝日が 庭 いっぱいに かがやいて います。
- ① (さく) 花が 庭 いっぱいに .
 - ② (はえる) 草が 庭 いっぱいに .
 - ③ (さす) 月の 光が 庭 いっぱいに .
 - ④ (出る) 星が 空 いっぱいに .
 - ⑤ (はる) しゃしんが かべ いっぱいに .
 - ⑥ (おく) 本が へや いっぱいに .
- (2) れい (うれしい) うれしそうに あそんで います。
- ① (かなしい) ないて います。

- ② (おいしい) 食べて います。
- ③ (おもしろい) 話して います。
- ④ (楽しい) 歌って います。
- ⑤ (いたい) 歩いて います。
- ⑥ (いそがしい) はたらいで います。
- ⑦ (まずい) 飲んで います。
- ⑧ (ねむい) 聞いて います。
- ⑨ (気持ち いい) ねむって います。
- ⑩ (おもしろく ない) 見て います。

4. おきかえ

(1) わたしは 朝 起きると すく ご飯を 食べます。

- ① 顔を あらう ② 歯を みがく ③ お茶を 飲む
 ④ たばこを すう ⑤ 新聞を ^よ読む ⑥ ラジオたいそうを
 する ⑦ 散歩を する ⑧ 何か 食べる

(2) わたしは きれいな 空気を すいながら、 庭を 歩きました。

- ① たばこを すう ② 歌を 歌う ③ 話を する
 ④ 手紙を 読む ⑤ いろいろな ことを 考える

(3) どこからか ラジオたいそうの 音楽が 聞こえて きます。

- ① 人の 声 ② 女の 人の 声 ③ 子どもの 声
 ④ 小鳥の 鳴き声 ⑤ 自動車の 音 ⑥ ひこうきの 音
 ⑦ 人の わらう 声 ⑧ 女の 人の 話す 声 ⑨ 子どもの
 さわぐ 声 ⑩ 小鳥の 鳴く 声 ⑪ 自動車の 走る 音
 ⑫ ひこうきの 飛ぶ 音

5. 問いと 答え

- (1) あなたは 毎朝 何時ごろ 目が さめますか。
- (2) 目が さめると、 あなたは すぐ 起きますか。
- (3) 朝 起きると、 あなたは すぐ 何を しますか。
- (4) あなたの へやには 日が よく さしますか。
- (5) あなたは ラジオたいそうを やった ことが ありますか。

◎ 新しい 言葉

- (1) 朝日 葉 むね 空気 土 小鳥 金魚 カーテン 健康
はら ストロー ソーダ水 スープ か 息 けむり みなさん
体温計 もと
- (2) さめる 飛び起きる (日が) さす 受ける かがやく 飛び移る
かける さしこむ ふく 集まる すえる はく 広げる すいこむ
ふる 落とす すすむ
- (3) 熱い
- (4) きらきら
- (5) どこからか
- (6) ～こむ

◎ 新しい 漢字

^{さんぱ} 散歩 ^{と お} 飛び起きる ^{にわ} 庭 ^{くう き} 空気 ^{つち} 土 ^む 向こう ^{と うつ} 飛び移る ^{きんぎょ} 金魚

^{はん} ご飯 ^{けんこう} 閉める 健康 ^{あつ} 熱い ^{いき} 息 ^{たいおんけい} 体温計 ^{せき} 席

2 果^{くだ}物^{もの}

1

りんごは、北の寒い地方で作られ、青森県と長野県が、その産地として、特に有名です。

五月に花がさきます。そのあとに小さい実がたくさんなります。

一本の木に、あまり多くの実をならせると、大きい実はなりません。ですから、じょうぶそうな実だけを残して、あとはとってしまいます。

害虫をふせぐために、ふくろをかぶせたり農薬をかけたりして、世話をして育てます。

りんごにはいろいろな種類があります。夏ころから食べられる物もありますが、秋の終わりでなければ、食べられない物もあります。形の大きい物もあるし、小さい物もあります。色の赤いのもあるし、黄色のもあります。味のあまいのもあるし、すっぱいのもあります。

2

ぶどうは、雨が多いと、病気にかかりやすいので、雨の少ない地方で多く作られています。ぶどうの産地

県産特残害虫薬種類終

2

として、いちばん有名なのは^{やまなし}山梨県です。

ぶどうの花は、黄緑で、新しくのびたえだにさきます。花が散ると、小さい実になり、それがだんだん大きく なります。

害虫をふせいだり、病気に かからないように したり するために、紙の ふくろを かぶせたり、農薬を かけたり して、育てます。

秋になると、実が じゅくして、食べられるように なります。

ぶどうにも、いろいろな 種類が あります。こい むらさき、赤むらさき、黄緑など、種類に よって、色が ちがいます。

大きさも、味も、種類に よって、ちがいます。

ぶどうは、その まま 食べる ほかに、ぶどう酒に したり、干しぶどうに したり します。

3

みかんは、寒さに 弱いので、太平洋に 面した あたたかい 地方で 作られて います。

みかんの 花は 白くて、夏の 初めごろから 開きます。つぼみが 出してから 花が 開くまで、一月ぐらい かかります。しかし、開いた 花は、たった 三日か 四日で 散って

2 緑 散 酒 干 太 初 開

しまいます。 花が 散ると、 緑色の 実が できて、 だんだん 大きく なります。

十一月ごろに になると、 みかん色に なって おいしく なります。

それまで 何回も 虫よけの 農薬を かけて、 育てます。

みかんにも やはり いろいろな 種類が あります。 形の 大きい 物も あれば、 小さい 物も あります。

皮の 厚い 物も あれば、 うすい 物も あります。

味の あまいのも あれば、 すっぱいのも あります。

みかんは、 ふつう その まま 食べます。 また、 かんづめに したり、 びんづめに したり、 ジュースに したり します。

4

北の 寒い 地方で とれた りんご、 雨の 少ない 地方で とれた ぶどう、 南の あたたかい 地方で とれた みかんなどは、 はこづめに されます。そして、 貨物列車や トラックに 積まれて、 外の 地方へ 運ばれます。そして、 りんごや ぶどうや みかんなどは、 町の 果物屋の 店先に、 ならべられるのです。

〔教育出版「新版標準国語二年下」による〕

皮 厚 貨 列 積 外 屋 先

2

1. 言葉の 使いかた

(1) ～と して

- ① 私は 国費留学生と して 日本に 来ました。
- ② 私は 趣味と して 切手を 集めて います。
- ③ 私は クラスの 代表と して 出席しました。
- ④ 田中さんは 医者と してよりも 政治家と して 有名です。

(2) あと

- ① みんなが 帰ったあとに さいふが 落ちて いた。
- ② 火事で 家が やけた あとに ビルディングが たった。
- ③ 来週の 水曜日は 都合が 悪いですが、 あとは いつでも いいです。
- ④ ここまで 教えて あげたから、 あとの 問題は 自分で 考えなさい。

(3) あまり (あんまり)

1.

- ① あまり 時間が ないから 急ぎましょう。
- ② あまり おいしく ないから、 食べませんでした。
- ③ あまり くわしくは 知りません。

2.

- ① あまり たくさん 食べると、 おなかを こわしますよ。
- ② あまり 急いだので、 さいふを わすれて きました。

2

私 費 留 趣 政 治 問